

幸福賞

浦和学院高等学校
並河 みい

ワクチンと闘う母

深夜0時。パソコンを叩く音が、部屋中に響きわたる。音の気配を感じ、起床した私の目には、コロナワクチンの診察表と闘う母がいた。

私の母は、医療従事者だ。コロナが流行してから、母は文字通り体がボロボロになるまで働いている。接客、レセプト、予約の対応から接種者のクレームまで様々なことを目まぐるしくかっていた。また、仕事だけでなく家事もしている母は、体を壊してしまうほどに、大変な日々をすごしている。

そこから私は、様々な家事を手伝うようになった。母は、そんな私を見て、「こんな優しい娘を持って幸せ。」と呟く。私は、その瞬間ぼろぼろと泣いてしまった。母が1番大変なのに、感謝の気持ちを忘れず、家族を大切にしているところに。涙が止まらなかった。

本当に大変な中、いつも気遣ってくれてありがとう。尊敬と感謝の念を母に捧げます。

感動大賞

南方ナーシングホーム翔裕園
佐々木 純子

2020年8月、私は可愛い男の子を出産しました。妊娠がわかったのはその年のお正月でした。その時は『子供が生まれる前に夫婦2人で旅行に行きたいな』、大好きなおじいちゃんおばあちゃんの為に『ひ孫にたくさん合わせてあげたいな』そんなわくわくな想いでいっぱいでした。ですが、妊娠3ヶ月になった頃から新型コロナウイルスが流行りだし、あっという間に生活が一変しました。何も生活が変わることなく出産の日を迎えました。予定帝王切開で、初めての手術なのに面会は一切できず、一人で不安や恐怖と戦うしかありませんでした。そんな中そばで支えてくれたのは産院で働く看護師さんや助産師さんでした。自分の家族の事もあるのに私達の家族の代わりになってくれました。今の世の中、人と会わない事が増えましたが、改めて人とのつながりや温かさを身に染みて感じる事ができました。コロナを忘れさせてくれる程の安心感や喜びを与えてくれて本当にありがとう。

感動賞

こうのすたんぽぽ翔裕園
横山 翔平

非常勤職員の皆さん、コロナ禍でありながら数多ある仕事の中で、感染リスクの高い介護の仕事が続けてくれてありがとうございます。子育て、家事、色々なストレスを日々抱えながら更にコロナウィルスの恐怖、それでも前を向いて一緒に仕事をして下さる姿に本当にありがとうございます。

皆さんのおかげで、入居者様、常勤職員は支えられています、いや元氣村が支えられていると言っても過言ではありません

外国人職員の皆さん、国も違い、言語も違うだけで負担になっている筈なのにコロナウイルス。自分が逆の立場だったらとても耐えられないと思います。それでも、入居者様、ご利用者様に寄り添う姿に我々は逆に勉強させて頂いています

まさか、自分が日本に居る時にコロナウイルスが大流行するなんて誰もわかるはずがない。家族や友人は無事か、不安に駆られながらも周りに見せない配慮。いつも学ばせて頂いています。本当にありがとうございます。これからも一緒に頑張りましょう

自分へ、入職して9年、ユニットリーダーになり2年以上になるね。

正直、ウンザリすること辞めたくなること、イライラすることがほと

んどでした

それでも、こうして感謝の想いを忘れず、皆の笑顔の為、声かけ第一の信念を忘れずにいてくれてありがとう

入居者様へ、コロナ禍とはいえ外出行事、面会出来なくてごめんなさい。

ストレスだって溜まっているだろうに、職員さんに『大丈夫?』と心配してくれる心遣い、笑顔に我々は伝わらないかもしれないけれど計り知れない元気を頂いています

これからの生活でしっかり返させていただきます。本当にありがとう

One for All. All for One

感動賞

サンガジャパン西日本支社
小山 龍大

コロナ患者を今もなお、治療している医療従事者の方々への感謝はもちろんのこと、私はまず自分の両親に感謝をしたい。

まず父に対しては、コロナに罹患し心身ともに疲れ果てたにも関わらず、復活し仕事へ毎日行っている。その理由は「家族を養うためだ」と言っていた。そんな父親に対して感謝と尊敬の念を持っている。

この経験があったからこそその感情であると思う。

次に母に対してだが、父からコロナウイルスをもらっていて、基礎疾患持ちということもあり入院までしている。にもかかわらず、毎日家族全員分のご飯を作ってくれている。

いまだ2人は、後遺症と思われる症状に悩まされているが、2人とも「家族のために」と言いながら働き、動いてくれている。

そのような両親の姿を見て感謝と尊敬はもちろんのこと、同じような状況下に置かれた場合には、模範にしたいとも思えた。これが私が「ありがとう」を送りたい2人である。

感動賞

足立翔裕園
新野 凧沙

お兄ちゃん、元気になっていますか？今年から看護師として働き始め、忙しそうにしていますね。

貴方は小学5年生という幼さで癌を患い、入院しました。私は幼さ故、癌というものを理解できておらず、貴方の友人、家族を、遠い輪の外から眺めていました。患者が辛い様に、その患者を中心とした多くの方が悲しみ、苦しむ姿をこの目で見ました。

この状況下で看護師として働くのは心身ともに大変だと思いません。加えて、新しい土地での一人暮らしです。きっと楽しい事ばかりではないでしょう。それでも、今日も頑張ってくれて、ありがとうございます。世の人を想ってくれて、ありがとうございます。これからも、治療を受ける者と、その友人、家族にも手を差し伸べてあげて下さい。貴方は優しい人です。その優しさに救われている人が必ずいます。

最後に、貴方自身を大切にしてください。貴方の家族である妹からのお願いです。

感動賞

浦和学院高等学校
石田 桃香

私は駄菓子屋が大好きだ。小中学生の間はほぼ毎日、放課後には百円玉を手に握りしめて通っていた。そしてわたしはだがしとおなじくらい駄菓子屋のおじいちゃんとおばあちゃんが大好きだ。私が学校であったことやその日にあった嬉しかったこと、いやだったことを話すと「うんうん」とゆっくり頷いて私を包み込むようにして話を聴いてくれた。入り口の戸をガラガラと開ければそこにはいつもの慣れた光景が広がっていて私が大きくなってもそれはずっと変わらなかった。

しかし、コロナが流行しだしてからその光景はすっかり変わってしまった。ある日自転車で店の前を通るとシャッターが閉まっていた。私は心にぽっかりと穴が空いた気持になって、それと同時におばちゃんとおじいちゃんに「いつもありがとう」と伝えていないことを思い出してひどく公開をした。今はまだ戸は閉まっているけれど、いつかその戸が開いた時には心から感謝を伝えたい。

感動賞

浦和学院高等学校
比嘉 陵太

「お母さん、会いたいよ。」私の母は医療関係者として、新型コロナウイルスが蔓延するなか社会のために日々奮闘している。私には小学 1 年生の弟がいるのだが、このような状況で母に満足に会えないことを悲しく思っている。

小学 1 年生という事もあり、見たり学んだことを何でも伝えたがるのだが、家には母がいないのでいつも私の発表しに来る。

宿題の〇つけもコメントもすべて私がしている。ある日、家に帰ると弟がいつもより無表情だったので理由を聞いてみると、他のクラスメイトは母からコメントをもらってないのに対して自分はいつも？の字であることに悲しくなったのだといった。成長期で一日一日、新しいことを吸収し大きくなっていくのを母親でさえ見届けられずウイルスの拡大に対し時間は止まることを知らず進んでいっている。そんな状況でも社会のために日々奮闘している母に最大級の感謝をしたい。